

## 2 文化センターの整備の考え方

次のとおり文化センターの整備の考え方をまとめ、具体的な施設整備を進めていきます。

### (1) 市民ニーズを捉えた既存諸室の再構成

市民意識調査と利用者アンケート結果に基づき、限られた施設を最大限に活用できるよう、現行施設の見直しを含めて諸室を整備します。

#### ア 諸室の多目的化

諸室が多目的に利用でき、更に利用しやすい施設となるように、次のとおり、室内備品を始め、施設全体の部屋配置などの工夫に取り組みます。

(ア) 市民意識調査では、10人以下での団体活動と、11人から30人までの団体活動の比率が同程度であることから、10人程度で利用できる会議室を隣り合わせに設置した上で、部屋の仕切りを着脱可能なものとし、利用人数によって大小の使い分けができるよう整備を進めます。

(イ) 講堂は、公民館の中で最も多い人数が利用できる常設の部屋として継続させ、発表会や事業で利用できるようにします。

(ロ) 料理室は、料理を伴わない活動にも使用でき、災害時に避難所としての転用ができるよう、コンロや水道設備を壁側に配置するとともに、調理作業と食事用に移動や収納ができるテーブルを部屋の中央に設けます。また、調理の臭いが館内や近隣住宅に広がらないよう、排気構造に配慮します。

(ハ) 和室は、舞踊や茶道など、日本の伝統文化の伝承が行えるように引き続き設置します。

#### イ 児童館の再構成

多様な利用がなされる児童館は、利用者が互いに干渉しないよう部屋の配置を工夫します。

(ア) 遊戯室、集会室、工作室は隣り合わせに配置し、部屋の仕切りを着脱可能なものとし、児童館として使用する場合には、全ての部屋をオープンに利用し、児童館指導員の目が届くよう整備します。

(イ) 仕切りを活用し、夜間などは児童館に限らない使い方ができるように整備します。

(ロ) 工作室は、水道設備を始め工作用の部屋として整備し、容易に移動や収納のできる工作用の机を配置します。また、勉強や読書などに使用できるよう、配置を自由にアレンジできる小型のテーブルを設けます。

(ハ) 児童館の作品を収納、保管、展示、鑑賞できるスペースを設けます。

(ニ) 乳幼児を連れた利用者が安全に過ごせるスペースを設けます。

(ホ) 安全かつ清潔におむつ替えのできる明るい印象のスペースを設けます。

#### ウ 高齢者福祉館の再構成

高齢者にとって更に足を運びやすい施設となるように、次のとおり整備します。

(7) 福祉の相談スペースは、プライバシーの観点から、他の部屋と動線が重ならないよう整備します。

(1) 大広間は、備え付けの舞台設備を見直し、多目的に利用できるよう畳をフローリングに変更します。現状の舞台のスペースは、カラオケ用防音スペースとして活用を検討します。なお、舞台を利用したイベントは、講堂で実施できるように、可動式舞台の導入の検討や、必要に応じ講堂を整備します。

## エ 図書館

図書館は、多くの地域住民が世代を超えて利用する施設です。特別な目的を持たなくても入りやすく、本との出会いを促し、滞在することができる施設として整備します。

(7) 入口付近の棚は、圧迫感がない配置とし、話題の本を置くスペースを設けるなど、入りやすいように工夫して整備します。

(1) 乳幼児や児童が利用するスペース、一般市民が利用するスペースを分け、多世代が同居できるように整備します。

(ウ) 施設内に読み聞かせ等の催しができるスペースを設けます。

(I) 静かに読書ができるスペースを設けます。

(ハ) 温かみがあり居心地のよい図書館にします。

## (2) 市民ニーズを捉えた諸室の発展と場の整備

市民意識調査と利用者アンケート結果に基づき、新たなニーズを反映した施設となるよう整備します。新たなニーズの反映は、現在の文化センター利用者の利便性向上に寄与するだけでなく、利用が比較的少ない層へのアプローチを兼ね、新たなコミュニティ形成の端緒とします。

### ア 遮音性のある設備、防音室の設置

各部屋に遮音設備を備え、活動に集中できる環境を整えます。また、防音室を新たに設置し、吹奏楽、和太鼓などの音の出る活動ができるようにします。

### イ ひばりホールの多目的化

ひばりホールは、近隣の市民活動センタープラッツやルミエール府中にホールがあることから、ホール専用施設とするのではなく、客席を固定せずスペースの広さをいかし、運動ができるスペース、舞台上で音楽ができるスペース、ダンスを練習するスペースなど、多目的に利用できるようにし、児童館としての開放ができるよう整備します。

### ウ インターネット環境や貸出備品の整備

来館者が、快適に利用できるよう整備します。

### エ 入りやすく居心地のよい開かれた施設

(7) 市民が休憩、会話、読書を行えるスペースを設置し、市民同士の交流が図りやすい環境を整備します。併せてカフェの設置を検討します。

(1) 青少年世代が学習や交流を目的として、終日優先的に利用できるスペースを設置します。

オ 府中らしさを感じる場の提供

(7) 府中の特産品の紹介や販売、フリーマーケットやマルシェを開催できるよう、屋外を含めたスペースの確保を検討します。

(1) 設計に当たっては、地域住民が中心のワークショップで意見を募るなど、地域の特性や要望を盛り込み、地域から愛される場となるよう工夫します。

カ 感染症対策の実施

感染症対策として、換気能力が高くCO<sub>2</sub>排出量を削減できる高機能換気設備の導入を進めます。

(3) 市民サービス向上につながる行政窓口

ア 窓口機能

証明書発行などの所要時間が短い窓口にはハイカウンター、手続時に対話が必要となる所要時間の長い窓口にはローカウンターを設置するなど、各業務の実情に即したカウンターを適切なバランスで配置します。

イ 相談機能

仕切りのあるカウンターや、相談窓口として活用できるスペースを設けます。

ウ 待合スペース

(7) 来館者数に対して十分な広さの待合スペースを確保します。

(1) カウンターと待合スペースの距離は、プライバシーに配慮した適切な距離を確保します。

エ 行政情報発信の拠点

誰もが必要な情報を入手できるよう、市政に関する資料やパンフレット等を集約して配置する情報コーナーを設置します。

(4) 防災・災害復興拠点

ア 施設の耐震化と不燃化を実施します。

イ 避難所として活用できるよう、移動が難しい大型の備品を設置する際は慎重に検討します。

ウ ペットを連れた避難ができるように、人とペットの滞在における動線の分けや、水道設備までの動線に配慮します。

エ 災害発生時、被災時に必要な情報を入手できるよう計画します。

オ 常設の防災備蓄品置き場を整備します。

カ 水害のおそれのある地域の文化センターでは、キュービクル式高圧受電設備などの電気設備を、想定浸水深を超える高さに設置します。

キ 土砂災害のおそれのある地域の文化センターは、避難所として活用できるよう配置を検討します。

(5) 施設利用者への配慮

ア バリアフリー及びユニバーサルデザインへの配慮

(7) 誰もがどのような時にも利用しやすく、快適な文化センターとするため、

府中市福祉のまちづくり条例に基づいたユニバーサルデザインの実現を目指します。

- (イ) 駐車場、自転車駐車場等から施設内へのスムーズな動線を確保します。また、段差の解消や滑りにくい床材の選定など、誰もが移動しやすい空間とします。
- (ウ) トイレのバリアフリー化を推進します。車椅子利用者用便房を配置し、また、その中に子供用便器、ベビーベッド、成人用ベッド等を設置します。
- (I) 入口等への音声案内や、外国語や点字を併記した案内板等を設置します。

#### イ 駐車場及び自転車駐車場

- (ア) 駐車場の台数設定は、法令等による設定台数及び現在の各文化センターにおける駐車場台数を基に算定します。
- (イ) 府中市福祉のまちづくり条例に定められた車椅子利用者用の駐車場台数の確保や、周辺における交通渋滞や安全性に配慮した利用しやすい駐車場について、設計段階において具体的な検討を行います。
- (ウ) 大型車両の駐車可能なスペースについて検討します。
- (I) 自転車駐車場は、現在と同程度の台数を確保するとともに、安全で利用しやすい駐車場となるよう検討します。

#### (6) 安全体制の確保

- ア 重要な書類や電子データなど、市民の個人情報について、徹底した管理が可能な執務室とするとともに、職員が作業する端末画面が外部から見えない配置とします。
- イ 休日開放時などにもセキュリティを確保できるよう、市民開放ゾーンと執務空間が分けられた配置を進めます。
- ウ 施設の駐車場、自転車駐車場や出入口付近など施設内の適切な場所に防犯カメラを設置し、防犯機能に優れた施設とします。
- エ 施設外壁に設置されているブックポストは、本以外のものを施設内に投げ込まれる懸念があることから、安全に配慮した工夫をします。

#### (7) 将来の変化に対応できる施設

- ア 屋根・屋上、外壁、内部仕上を始め、維持管理に優れた建築構造と材料を採用するとともに、将来を見据えた設備の老朽化や機能更新に対応しやすい設計とします。
- イ 階高、床面積、床荷重等の機能的なゆとりを確保し、移動可能なカウンターやフリーアクセスフロアを導入するなど、想定が難しい将来の行政ニーズ等にできる限り対応する設計とします。
- ウ 敷地全体が、市民の憩いの場として継続して利用ができるよう配慮し、空間構成及び建物配置については、将来の様々な変化に対応でき、かつ長寿命な施設を目指します。